

杉谷4号墳 土器破片700点出土



土器約700点が出土した発掘現場（27日、富山市杉谷で）

富山大人文学部考古学研究室が同大杉谷キャンパスにある墳墓「杉谷4号墳」で初の本格的発掘調査を行い、27日、報道陣に現場を公開した。約700点の土器の破片が出土しており、古代の日本海側で行われた

文化交流の流れを解明する手がかりになると期待されている。

墳墓は「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれるタイプで、俯瞰すると、「X」の形に見える。このタイプは北陸、中国、山陰地方でのみ見つか

り、日本海側地域で権力者同士の交流があったと推測されている。今回の調査では、突出した四隅の一部を発掘。墳墓の周囲の溝の深さは最大1.5メートル、幅2.5メートルであることが確認された。溝からは約700点の土器の破片が出土。墳墓に権力者を埋葬する際の祭祀に使われたと推測される。

杉谷4号墳が作られた年代は弥生時代終末期、古墳時代初頭とされているが、出土した土器を調べることでもその時期を絞り込める可能性がある。調査を担当した富山の次山淳教授は「時期が分かれば、ほかの墳墓の年代との比較で、このタイプの墳墓がどのようにして山陰から北陸に伝わったのか推測する材料となる」と話している。同研究室は29日午後1時半から現地説明会を行う。

突出部の溝を確認

つぼの破片も出土 築造年代特定へ



突出部に溝が張り巡らされている杉谷4号墳
富山市の富大杉谷キャンパス

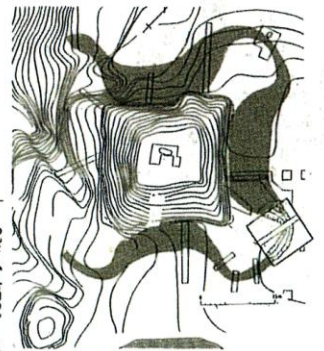
38年ぶり 杉谷4号墳を調査

富大人文学部研究室

富大人文学部考古学研究室は、富山市の杉谷キャンパス内に残る「杉谷4号墳」を38年ぶりに発掘調査し、27日、発掘現場を報道陣に公開した。墳の四つ角が三味線のバチのように突き出した独特の形をしており、今回の調査では突出部に沿って掘られた溝の形状を確認した。研究室は当時の墓の工法を知る上で貴重な資料とし、築造年代の特定に結び付けたいとしている。

研究室によると、杉谷4号墳は「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれ、造られ、同様の墓は広島県や鳥根、鳥取県の杉谷キャンパスがある丘陵の南西端に現存。弥生時代最末期から古墳時代初頭にかけて築に広く分布している。富山市教委が1974（昭和49）年に杉谷4号墳を調査し、当時の

調査で墓部分は1辺約25メートル高さ約3メートル、四隅の突出部分は長さ約10メートル、幅12〜14メートルと推定された。今回は前回の推定をもとに、突出部の未調査区域に当たる100平方メートルに限定して調査したところ、突出部に沿う溝は、墓に向かって逆台形の形をしていくことが分かった。最も



杉谷4号墳測量図（網部分に溝、網の内側が突出部分）

も深い場所で1・5メートルだった。溝からは大型のつぼの破片など約700点も出土した。つぼは祭祀用とみられ、二重円の模様があった。調査に当たった富大人文学部の高橋浩二准教授は「杉谷4号墳が弥生時代のものなら北陸で最大級となり、有力な首長の存在も裏付けられる。溝や出土物を詳しく調べ、年代を特定したい」と話している。杉谷4号墳の現地説明会は29日午後1時半から開かれる。

突出部の形状判明

杉谷4号墳
富山大調査 築造年代解明へ

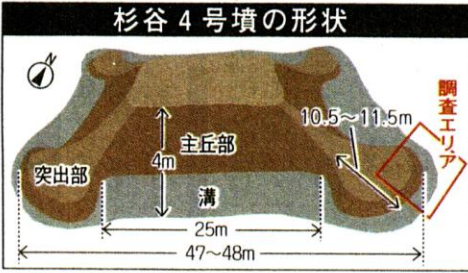
富山大人文学部の考古学研究室は27日、同大杉谷キャンパス内にある四隅突出型墳丘墓「杉谷4号墳」の調査成果を発表した。墳丘墓の突き出た部分の周りに掘られた溝の構造から突出部の詳細な規模が分かり、溝からは祭祀に使ったと見られる約700点の土器も出土した。築造年代を特定する手掛かりとなる。同大の高橋浩二准教授は「造ら



突出部を取り巻くように溝のある構造を確認した「杉谷4号墳」。後方の林は、ひつぎを埋葬したとみられる主丘部＝富山大杉谷キャンパス

れた年代が分れば、この地域にいつまで独自の勢力があったかが分かる」と話している。

四隅突出型墳丘墓は、方墳の四隅が丸く突き出ているのが特徴で中国・山陰地方と北陸で見つかっている。杉谷4号墳は、同キャンパス内にある杉谷古墳群の一つ。突出部を含めた一辺の長さは47〜48メートルあり、大きさは北陸最大級。弥生時代終末から古墳時代初頭（約1800〜1700年前）に造られた王の墓と見られている。調査は、富山市教育委



員会が1974年に墳墓を確認して以来38年ぶり、初の本格的な調査となる。突出部の付け根から先端までの長さは、10・5〜11メートル。溝の幅は2〜5メートル、深さは80センチ〜1・5メートルで、溝の底からひつぎを収めた主丘部の頂点まで約4メートルあることが分かるなど、詳細な形状を把握した。

突出部は年代が新しくなるにつれて、大きくなる傾向がある。大量に出土した土器の制作年代も詳細に調べれば、杉谷4号墳の築造年代特定につながるという。弥生時代に特徴的な四隅突

出型墳丘墓は、大和王権が成立する古墳時代に入ると、徐々に前方後円墳に取って代わられる。築造年代がある程度分れば、この地域の王がいつまで勢力を維持していたかが分かるという。

同大は専門教育の一環として毎年、杉谷古墳群の発掘調査を実施。次山淳教授と高橋准教授、学生約20人が4号墳の突出部約100平方メートルを調査した。29日午後1時半から現地説明会を開く。問い合わせは同大総務部広報グループ、電話076(445)6027。